

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】令和2年3月5日(2020.3.5)

【公開番号】特開2018-140601(P2018-140601A)

【公開日】平成30年9月13日(2018.9.13)

【年通号数】公開・登録公報2018-035

【出願番号】特願2017-37614(P2017-37614)

【国際特許分類】

B 3 2 B	37/12	(2006.01)
B 2 9 C	65/48	(2006.01)
G 0 2 F	1/1333	(2006.01)
G 0 9 F	9/00	(2006.01)
C 0 3 C	27/10	(2006.01)
C 0 9 J	4/02	(2006.01)
C 0 9 J	133/00	(2006.01)
C 0 9 J	11/06	(2006.01)
C 0 9 J	5/00	(2006.01)
B 0 5 D	7/24	(2006.01)
B 0 5 D	1/36	(2006.01)
B 0 5 D	3/06	(2006.01)
B 3 2 B	38/18	(2006.01)

【F I】

B 3 2 B	37/12	
B 2 9 C	65/48	
G 0 2 F	1/1333	
G 0 9 F	9/00	3 4 2
C 0 3 C	27/10	E
C 0 9 J	4/02	
C 0 9 J	133/00	
C 0 9 J	11/06	
C 0 9 J	5/00	
B 0 5 D	7/24	3 0 1 T
B 0 5 D	1/36	Z
B 0 5 D	3/06	C
B 0 5 D	7/24	3 0 2 Z
B 3 2 B	38/18	F

【手続補正書】

【提出日】令和2年1月22日(2020.1.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 0】

また、工程(C)は、上述したように第2の樹脂組成物8を加熱することを含む。第2の樹脂組成物8を加熱することにより、第2の樹脂組成物8が減粘された状態で塗布領域7に充填される。これにより、第2の樹脂組成物8中の気泡を防止し、短いタクトタイムでの貼合せが可能となる。加熱条件は、第2の樹脂組成物8の粘度が低粘度(例えば例え

ば3000mPa・s以下)に調整されるように設定することが好ましい。例えば、加熱温度は、画像表示部材2や光透過性部材3への熱による影響を考慮して、80以下が好ましく、60~80がより好ましい。加熱時間は、例えば、30分~3時間程度とすることができる。加熱のタイミングは、画像表示部材2と光透過性部材3との貼合せ前に行ってもよいし、貼合せる際に行ってもよいし、貼合せ後に行ってもよい。加熱方法としては、例えば、加熱ヒータ等を用いる方法等が挙げられる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0059

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0059】

[単官能モノマー]

ISTA:イソステアリルアクリレート、大阪有機化学工業社製

M-111:ノニルフェノールEO変性アクリレート、東亞合成社製

M-113:ノニルフェノールEO変性アクリレート、東亞合成社製

M-117:ノニルフェノールPO変性アクリレート、東亞合成社製

M-120:2-エチルヘキシルEO変性アクリレート、東亞合成社製

M-101A:フェノールEO変性アクリレート、東亞合成社製

M-102:フェノールEO変性アクリレート、東亞合成社製

M-106:-フェニルフェノールEO変性アクリレート、東亞合成社製

M-110:パラクミルフェノールEO変性アクリレート、東亞合成社製

M-140:N-アクリロイルオキシエチルヘキサヒドロタルイミド、東亞合成社製

M-5700:2-ヒドロキシ-3-フェノキシプロピルアクリレート、東亞合成社製

IBXA:イソボルニルアクリレート、大阪有機化学工業社製

HPA:ヒドロキシプロピルアクリレート、大阪有機化学工業社製